

デジタルトピック (Vol.2)

本市では「デジタルで便利で豊かな新ステージ」を目指して高齢者にもやさしいデジタル化を推進しています。

このコーナーでは、地域のデジタルに関する取り組みを紹介します。

概要

設立／令和4年4月
※9月から活動スタート。
職員／17人(64歳～79歳)
【男性12人 女性5人】
※令和5年3月現在。

活動目標

- ・ICT講座を実施し、会員の生活向上を目指す。
- ・スキルを習得し、ICT関連業務の受注拡大を目指す。

連絡先／☎531-2511



▲市シルバー人材センター「ICT班」の皆さん

市シルバー人材センター「ICT班」

ICTスキルを高め、人生の充実を図る

市シルバー人材センターでは、令和4年4月に「ICT班」を設置し、2つの活動目標を掲げて9月から活動をスタートしました。

1つ目は、スマートフォンの操作講習会を実施し、会員の生活向上を目指すこと。ICT班員が講師となり研修会を12回実施しました。

2つ目は、パソコン操作などのスキルアップ研修を実施し、ICT関連業務の受注拡大を目指すこと。ポリテクセンターと連携してパソコン教室を2回実施しました。

本年4月からは、市が運営するデジタル活用相談窓口「デジタルサポートデスク」の水曜日の相談業務をICT班員が担当しています。

皆さんも会員になって一緒にデジタルを楽しみましょう。

ICT班

まいや 米谷さんに聞きました！

人生を最後まで楽しくワイワイ！

パソコンや携帯でニュースを見たり、買い物、調べ物…デジタルは、色々できて、人と世の中と繋がって、ワクワクして過ごせます。

操作を覚え、仕事ができれば一挙両得。仲間も増える。常日頃から使えば忘れない。そんな自分を目指し活動しています。

皆さんも一緒に始めましょう!!

■問／デジタル推進課 ☎572-3943

We Love♥
ふくしま!

第58回 「吾妻山麓」

福島市が制作した外国人向けの動画「盆栽 吾妻五葉松」がクールジャパン・プラットフォームアワード2023のグランプリを獲得しました。厳しい自然に自生する吾妻五葉松の精神性を強調し、荒涼としたムードが漂う動画ながら、公開後1年余で22万回再生。外国人の目には、クールなイカした日本文化と映っているのでしょう。地元盆栽の文化性の高さに改めて気づかれます。

吾妻山麓は、本市にとって「宝の山」。さまざまなお恵みをもたらしています。

昨年、本市への観光客入込数は、コロナ禍にもかかわらず過去最高の77万人となり、磐梯吾妻スカイラインの利用者は118万人で、前年の3倍、大震災前年と比較しても2倍となりました。コロナ禍だからこそ、密集せず、雄大で開放的な気持ちになれる魅力が人気を集めたのでしょう。

また、この山に出ずる清流・荒川は12年連続の水質日本一。「荒れ川」を制御するために築かれた霞堤や堰堤は貴重な土木遺産で、見た目にも美しい。万世大路は、廃路マニアの聖地で、

この冬は、廃トンネルにできる氷柱を見に行くツアーが催行されました。

湖沼や高原性の花も魅力的です。湖沼は裏磐梯というイメージがありますが、吾妻山麓にも一切経山の山頂から見える五色沼(魔女の瞳)や土湯の女沼・男沼などがあり、新緑や紅葉の季節の美しさは格別です。30万都市にこのような場所があるとは、大都市の方々には信じがたいでしょう。

花回廊スポットに列挙されるヒメユリやミズバショウの群生地もあります。特にビック沼は車道のすぐそばにあり、手軽にミズバショウを見ることができます。山の学校のようなカフェと合わせて、山村気分をたっぷり味わえます。

最近では、麓の斜面にワイナリーができ、ワインを味わいながら、市内を一望できる展望施設もオープンしました。

市では、吾妻山麓をテーマにした観光「吾妻山麓ツーリズム」を推進しています。市民の皆さんも、吾妻山麓の魅力を再発見してはいかがでしょうか。



福島市長 木幡 浩